

美郷町商工会と災害時の連携を図る

災害時応急生活物資供給協力協定

町内において地震や風水害などの災害が発生した場合、町民の生活に必要な応急生活物資の調達と安定供給を行うことを目的とした、災害時応急生活物資供給協力協定の締結式が10月23日、役場六郷庁舎で行われ、美郷町商工会の近藤道哲会長と松田町長との間で協定書が交わされました。

協定書を交わし終えた近藤会長は「わが国は地震や台風などさまざまな災害の可能性を抱えており、それは美郷町にとっても例外ではない。商工会は地域の皆さんのおかげで成り立っているのです、災害時には商工会として、でき得る限りの対応をしたい」とあいさつしました。

この協定の締結により本町は、おとしし11月に友好都市である東京都大田区と締結した防災協定、ことし9月に町内のタクシー会社およびアマチュア無線団体と締結した災害時無線通信協力協定に続いて、3つ目となる災害時を想定した協定を締結したことになります。町では、今後も地域防災計画に基づき、防災体制の強化に努めます。



協定を締結し松田町長と握手を交わす近藤会長(写真右)

町内企業の交流と連携を促す

美郷町企業連携協議会設立総会



町内の企業間の交流と連携を促し、地域振興と地域経済の活性化を目的とした、美郷町企業連携協議会の設立総会が11月6日、賛同企業の関係者らが出席して、六郷のアクアホールで開かれました。

総会でははじめに設立発起人を代表して、山崎ダイカスト株式会社秋田工場の山崎博次代表取締役が「美郷町の発展のため、若手育成を念頭において、若い人たちが活躍できる場を提供していきたい」とあいさつ。続いて、協議会会則など4件の案件について原案のとおり承認し、町内の賛同企業16社で組織された、美郷町企業連携協議会が発足しました。

同協議会では今後、同業種・異業種間の企業交流や連携を支援するなどの事業を実施し、町内企業の振興を図ります。

全国に先駆けて認定を受ける

町立幼稚園・保育園が「認定こども園」へ

幼稚園と保育園の良いところを活かしながら、その両方の役割を果たすことができるような新しい仕組みとしてスタートする「認定こども園」の認定証授与式が11月16日、県庁知事室で行われ、千畑・六郷・仙南の各幼稚園・保育園が全国に先駆けて認定を受けました。授与式には本町から松田町長をはじめ各園長らが出席。寺田知事から松田町長に認定証が手渡されました。

本町では、旧千畑町が国の構造改革特別区域に認定され、のちに町村合併にもない全域に拡大されて行ってきた「幼保一体的運営」や、未就園児を対象とした遊びの広場を開催するなど、さまざまな子育て支援事業への取り組みが改めて「認定こども園」としてのお墨付きをいただいたものです。

このたびの認定により、町の取り組みが大きく変わることはありませんが、引き続き就学前の子どもに対する教育・保育の提供と地域の子育て家庭を支援します。



当日は県庁第二庁舎で、教育関係者らが出席して、認定こども園シンポジウムが開かれた。

あなたの「声、
を町長に直接
伝えませんか

12月のふれあい談話室

期 日	時 間	場 所
12月26日(火)	午後5時～ 午後6時30分	仙南庁舎 (2階応接室)

町長が町民の皆さんから、町政へのご意見やご要望を直接お伺いします。

また、面会は随時受け付けますので、事前に町長公室秘書広報班にご連絡ください。

問い合わせ

役場(六郷庁舎)町長公室 秘書広報班 ☎0187-84-4900(内線1226)

町長が週1日
役場千畑庁舎
と仙南庁舎で
執務

移動町長室

曜 日	時 間	場 所
毎週火曜日	午前9時～	仙南庁舎
毎週木曜日	午後3時	千畑庁舎

町長が毎週1日、役場千畑庁舎と仙南庁舎で執務していますので、ご用のある方はお立ち寄りください。

なお、会議への出席などにより、不在の場合や実施できない場合があります。

風

美郷町長 松田知己



「見えない力」

師走です。もともと忙し^{せわ}ない身に、更に気持ちの上でも忙しさが増すような気がします。皆さんはいかがでしょうか。

さて最近、さまざまな外来語を目にします。行政関係者の私でも「？」と思う言葉があります。先日「ソーシャル・キャピタル」という言葉と出会いました。直訳では「社会資本」となりますが、例えば道路や各種公共施設などを意味する社会資本とは、どうも定義が違ふようです。

地域における、目に見えない共通の規範や価値観、相互扶助の力などを言っているようですが、こうした力を「地域維持や地域振興のために役立てよう」というのが、使われている意図のようです。ある学者の研究では、こうした力が残っている所は、犯罪が少ないなどの特徴があるとのこと。

冷静に考えてみると、この力は農村地

域の最大の特徴ではないかと思えます。「結」に代表される農作業の相互扶助、生活全般での助け合い、農道や水路の共同賦役、伝統行事などなど。言わば農村の真髄です。

だからでしょうが、先般、農林水産省でこれに係る研究会を立ち上げる話がありました。そしてどうした訳か私に委員委嘱があったところです。自分にとって興味がある分野でしたので、喜んで引き受けしましたが、美郷の地域振興に向けて自分の研鑽^{けんさん}機会にもしたいと思っています。

現在、町が取り組んでいる「子ども見守り活動」や福祉、環境を中心にしたボランティア活動なども、こうした力が核心にあります。そして、農業生産に係る組織化もその範疇^{はんちゆう}にあるように思っています。

現在のところ、集落営農組織は二十一組織が設立されておりますが、今後もその動きが拡大していくだろうと思えます。各組織には、農業生産の効率化と合わせて、農村だからこそ守るべき「目に見えない力」の維持にも寄与していただくよう、改めてエールを贈りたいと思います。

最近、人も財源も少なくなってきたるので、「二粒で二度おいしい」取り組みを目指しておりますが、集落営農組織にもこうした視点があるとは思っていませんでした。この言葉と出会うまでは・・・

写真

10月29日に行われた美郷の味コンテストで、出品料理を審査する松田町長